

赤ちゃん登校日に参加して・・・

赤ちゃん登校日がなくなるとちょっとさみしいです。でもまた赤ちゃんやお母さんと出会ったら声をかけたいです。もう一度赤ちゃん登校日をしたくなりました。

中村 友香さん

赤ちゃん登校日授業が終わった後、児童たちから赤ちゃんとお母さんへお礼の手紙が贈られました。そこにはみんなの素直な心が書かれていました。



子どもたちも(2回目の)再会を楽しみにしていたようですが、それ以上に私自身が楽しみにしていました。普段他の子どもたちとふれあうことがないので、とてもいい経験になりました。これからの自分の子育てにも大いに役立ち、子育てにも自信がつかしました。

土田陽子さん・望央ちゃん

たった1カ月でも赤ちゃんがすごく成長するとわかりました。お母さんが赤ちゃんをあずけてくれてうれしかったです。

「人の気持ちを考える」それをこの赤ちゃん登校日から学びました。

大筆 理彩さん

<お礼の手紙より(抜粋)>

4年 中村 友香

●みおちゃんのお母さんへ

2回目は、みおちゃんのごきげんがわるかったですね。でもお母さんがだっこしたりおんぶをしたりすると泣きやみましたね。すごいなあ。わたしもやってみたいなあと思いました。

みおちゃんが「あ～」とかしゃべったとき、わたしが笑ったら、みおちゃんも笑ってくれてうれしかったです。心が温かくなりました。また会ったら声をかけてください。

●みおちゃんへ

「いない・いない・ばー」とやったら、みおちゃんはニコッと笑ってくれたね。そのとき、うれしなあと思ったよ。ごきげんがわるかったね。ねむたかったんだね。いっしょうけんめい、おきていてくれてありがとう。またこんど会おうね。

<お礼の手紙より(抜粋)>

5年 大筆 理彩

●みおちゃんのお母さんへ

この前みおちゃんをだっこしたときは、だき方も変わっていでちょっと手まどったけど、みおちゃんはうれしそうにニコリ笑ってくれて心が温かくなりました。

私たちが歌を歌っているとき、お母さん泣いていましたよね。私まで泣いてしまいました。また会えるといいですね。

●みおちゃんへ

この前、みおちゃんをだっこしたとき、ニコッと笑ってくれたよね。私もつい笑ってしまったよ。みおちゃん笑顔が私のきんちょうもほぐしてくれたし、本当にありがとう。またいっしょに遊ぼうね。

心を開いて精一杯ほくは伝えられました。いろいろ素直な心とか学べました。

(5年 中川俊也)

赤ちゃんから学べたことがたくさんあったので、その学べたことを生かしてこれからもがんばっていきたいです。

(5年 宮下鈴矢)

赤ちゃんがいろいろなこと(寝返りやおすわり)をできるようになったことに「すごいなあ」と思いました。

(5年 荒川流樹也)

赤ちゃんに絵本を読んであげました。少し緊張したけどだんだん慣れてきました。赤ちゃんに私の気持ちは伝わったと思います。

(5年 清酒優美)

こんなことを感じたよ 高階小学校 4～5年生の声

1回目からたった1カ月しかたっていないのに前よりも成長してすごいなあと思いました。

(4年 後当龍一)

事前学習ではコミュニケーションをとるくらい簡単だと思っていたけど、赤ちゃんとお母さんとかかわっているときにはなかなかとりづらかったです。

(4年 宮川涼)

このような体験はすごく貴重で、今できることは今のうちにしたほうがいいなあと思いました。私もこんなときがあったんだと思いました。

(5年 赤坂美琴)

赤ちゃんが自分のエプロンをひっぱってくれたのがうれしかったです。前はだっこしたとき泣いたけど、2回目は泣かなかったのでうれしかったです。

(5年 藤井美咲)

私たちは1カ月たってもあまり変化はないけど、赤ちゃんはたくさん変化することがわかりました。

(4年 松澤奈菜)

1回目のとき全然声をかけられなかったけど、今回(2回目)はたくさん声をかけられたのでよかったです。

(4年 辻陵太)

赤ちゃんとお母さんのお母さんに自分の気持ちが伝わったと思います。私にも赤ちゃんやお母さんの気持ちが伝わってきました。

(5年 裏和香子)

緊張したけど精一杯気持ちを伝えられたと思いました。赤ちゃんが泣いたとき、お母さんがだっこしたら泣きやんだので、すごいなあと思いました。

(5年 小竹里奈)

皆さんは口頃から子どもと向き合っていますか？家族と向き合っていますか？友達と。職場の仲間と。となり近所の人と。地域のつながりや人とのつながりが徐々に薄らぎつつある現代。相手と向き合い、関係を見つめ直してみませんか。

交流授業の終わりに、児童たちから赤ちゃんと赤ちゃんのお母さんへ感謝の歌「ママの手」が贈られた。自分たちが生まれてから今まで大切に育てられたことを、身をもって体験した児童たち。その目からは涙があふれ出ている。

一つひとつの歌詞には自分たちに命の大切さを教えてくれた赤ちゃんとそのお母さん、そしてかけがえのない家族への感謝の想いが込められていた。その想いは赤ちゃんのお母さんにも伝わり、涙ぐむ人も見られた。

人は決して一人では生きられない。常に自分の命と向き合ってくれた人がいてくれたことを改めて考えさせられた。日々の暮らしの中で私たちが忘れがちな大切なものを赤ちゃんが教えてくれた。

交流授業の終わりに、児童全員から赤ちゃんと赤ちゃんのお母さんへ感謝の気持ちを込めて、子育ての詩「ママの手」が贈られた。

そのひと言ひと言をかみしめながら、児童たちは自分たちの想いを体いっぱい伝え、お母さんたちはその想いを精いっぱい受けとめようとしていた。

ママの手

作詞・作曲/川嶋あい
原詩/鍛冶 恵美子

やわらかい大きなママの手 僕を今癒してくれる
ねんねの時は枕元で歌ってくれた
何も話せずに泣いてばかりで それでしか伝えられない
一人ぼっちは絶対嫌だよ いつもそばにいて
魔法をかけてくれる不思議なママの手
淋しいときもお腹すいたときもどんなときも
その手があればきっと乗り越えられる
早く来てほしい こんな小さな僕 お願い守ってね

かぜひいてつらかったときは腕の中包んでくれた
お星様がキラキラ光る夜空を見てた
困らせてばかりいたけどいつも誰よりも大好きなんだ
いつまでも僕を見守ってね 安心するから
大人になったときは曲がりなりにも
生まれた意味を見つけてゆけるかな？
イタズラした時は本気で叱ってくれた
それも本当はあたたかい手なんだ
ごめんね、ありがとう

魔法をかけてくれる不思議なママの手
僕の頭をそっと撫でてくれる あったかい
うれしいときにぎるママの手のひら
僕の胸にもうれしさが伝わる
わざとぐずったよ

※「ママの手」は、(財)いしかわ子育て支援財団が全国から公募した歌詞をもとに、歌手の「川嶋あい」さんが作られた、いしかわ発エンジェルソング「子育ての詩」です。

特集

人と向き合う命の回廊。

完